

平和新聞

京都版

E-mail: kyo-hei@crest.ocn.ne.jp 編集 京都平和委員会 Tel.075-811-3203 Fax 075-811-3213

祝園弾薬庫の危険性を考える緊急集会在開催されました！ 祝園弾薬庫がミサイル基地になるの?!



熱心に聞き入る参加者の様子。講師は片岡明理事長

政府は敵基地攻撃を担う長射程ミサイルを保管する大型火薬庫を全国に整備する計画を明らかにしましたが、陸上自衛隊祝園(ほうその)駐屯地がその中に含まれていることから、相楽平和委員会では3月25日、祝園弾薬庫の危険性を学ぶ集会を精華町「かしきの苑」で開催。約60名が参加。以下の概要です。

自衛隊基地の強靱化と米軍と一体となった軍事態勢づくりが様々な視点から報告

寝耳に水の重大事態に精華町の住民をはじめとして周辺の京田辺市や津川市、少し離れた笠置町や京都市などからも60人ほどが集まりました。

京都平和委員会の片岡明理事長からは、「敵基地攻撃」戦略の下で、報復攻撃に備えて、祝園弾薬庫を含む全国283自衛隊基地の「強靱化計画」で核兵器による攻撃を想定した司令部隊等の地下化、さらに、同基地を含む130基地の長射程ミサイルを保管する「大型火薬庫」を整備する計画が明らかにされました。そして、京都府下、米軍と一



沖縄の資料を使って講演する山田聡氏

体化した京丹後の経ヶ岬リーダー基地、福知山射撃場・・・と軍事態勢づくりが進められています。

地元の平和問題の実践・研究者の山田聡氏からは、沖縄の平和運動家から提供された資料を使って、既に石垣島などでは、ミサイル基地建設が強引に着手されていることが報告されました。近々、沖縄と結んだミサイル基地展示会をするとの案内もありました。沖縄は祝園弾薬庫の近い将来の先取りかもしれません。

また、精華町の青木敏議員からは、祝園弾薬庫には危険度第1級の弾薬が貯蔵されている可能性がある

ることや、グーグルで検索すると新しい貯蔵庫が建設されていることがわかる、等の報告がありました。最後に、相楽平和委員会の坪井久行代表から、「相楽弾薬庫をめぐる歴史的動きと今後の展望」が報告されました。坪井代表は、30年間の祝園弾薬庫をめぐる様々な問題を説明するとりくみを『ミステリー祝園弾薬庫の謎を解く』として、ミステリードラマ風に語りました。戦時中の1939年、枚方の禁野火薬庫の爆発による代替地として建設されて以降、「東洋一の弾薬庫」として、陸軍の重要拠点になってきたこと、戦時中は「毒ガス兵器」を保管し、戦後、山中に埋蔵された疑いがあることを説明。戦後は、米軍に管理され、極東米軍の「核兵器処理能力のある基地」として位置づけられていたことや米軍秘密資料が解禁されたことにより明らかになったことも報告。自衛隊移管後も、国内の不発弾の持ち込み、処理の事実も町内の関係者から言われていること、そ

（裏面に続く）

▼今朝、家を出ようとする直前、テレビでJ-アラートが鳴り響いた。北海道の方々に避難を呼びかけるものだったが、なぜ全国的に放映中のテレビを中断してまで？との疑問。こうやって不安感をあおり、大軍拡しなくちやという世論形成か？▼自衛隊の強靱化計画が進んでいる。自衛隊基地に核シェルターまで作るらしいが、近隣住民はどうなつてもいいということなんでしょう。対象リストは47都道府県に上るので、シェルターに避難した「偉い人」だけが生き残るのかもしれない。▼一方市民はといえ、インフレの高波が押し寄せて、日経新聞によれば平均的な朝食の値上がり率は2020年1月に比べて14.9%なんだそうさ。▼おかしいな、困ったなと思う人は多いはずなのに、なかなか世論が高まらないのは、私たちが頭を切り替えて、多くの人に届くようなやり方と見せ方を考える必要があるということだろう。(お)



の関連で、1992年「謎の大音響事件」(原因不明)の真相解明の努力がされてきたことなども報告されました。さらに、祝園弾薬庫の内部に2本の活断層(撓曲)があること、イノシシの自由出撃の拠点になっていくこと・・・など、地元住民の視点から問題提起されました。そして、一つ一つの問題を通して、弾薬庫の危険性を住民の共通認識にしているという息長い取り組みだと語りました。

今回のミサイル基地問題は、周囲に住宅地の密集する祝園弾薬庫が、ロシアのウクライナ侵略でも真っ先に狙われたように、最も危険な弾薬庫だということ。住民に真実を知らせ、平和を守る一大運動をつくる決意です。

「機関紙部員のオススメ本」
「情報自由法」で
社会を変える
(岩波ブックレット)

米軍は日米地位協定により、日本の法律に従わなくてもいいが、米国の法律には従わなくてはならない。それなら米国の情報公開制度を利用して米軍基地内で何が起きているかを調べてみよう。この著作の執筆者で英国人記者のジョン・ミッチェル氏は米国の「情報自由法(Freedom of Information Act、略称FOIA)」を利用して2014年、沖縄米軍基地の枯れ葉剤の影響を調べたことを契機に今ではFOIAオタクを自認するまでになっている。



そしてこの制度を日本に広めたいとの思いから、そのノウハウをまとめて刊行したのが、この文献である。ミッチェル氏は前記の枯れ葉剤の影響調査の他に沖縄における海兵隊の新任研修やCIAの日本での活動、在日米軍の犯罪等、多彩な調査を紹介している。特に注目されるのは

発がん性が疑われる有機フッ素化合物(PFAS)泡消火剤が横田基地で何度も放出され、地域社会を汚染していたことをミッチェル氏がFOIAによって確証を掴み、東京都による調査に結び付けた。

ミッチェル氏はその後、米軍によってアクセスが遮断され、「敵対的」とまで言われたが、透明性と説明責任を追及する活動は現在も変わっていない。

米国の情報自由法を参考に日本でも1999年に「情報公開法」が成立したが、2013年に安倍政権が「特定秘密保護法」を強行採決したことで、政府による情報の恣意的な機密化が可能となり、現在では国や私人が流布する大量の悪意ある情報にさらされる中、ミッチェル氏はFOIA等を利用して政府の透明性と説明責任の追及の強化を訴えている。

(機関紙担当/井上)

2023年の平和大会は
11月11日(土)〜12日(日) 鹿児島市内で!
リアル参加を基本にオンライン併用で
第1回実行委員会より

岸田政権による戦争国家づくりのための大軍拡とのたたかいがいよいよ本格化するなかで、2023年日本平和大会の第1回実行委員会が、開催され、

大会の日程を11月11〜12日、鹿児島市内の会場でリアル参加を基本に、オンライン併用で開催することを確認しました。

アメリカの対中国戦略、

とりわけ台湾有事を煽るアメリカの軍事戦略のなかで重大な焦点となっている南西諸島の軍事要塞化という問題があり、その一角をしめる鹿児島市のたかひに全国から結集し、運動を交流する意義は、大きなものがあります。詳細は今後のニュースで順次、お知らせします。

【京都平和委員会・会員の声】

「へいわのうた」を広めたい 中平一二三さん

道端に落ちているミカンの皮を棒切れに突き刺して「アンボハンターイ!」とみんなで並んで歩く――5歳の頃の遊びの記憶です。60年安保は、四国の離島の子どもの世界にまで影響を与えました。歴史に「もしも」はない、と言うけれど、あのとき安保条約が廃棄されてさえいけば、平和憲法を抱く日本が現在、ここまで危険にさらされることはなかった、と思ってしまう。一度踏み込んだ戦争に続く道は、引き返すには余りに大きな困難があるように見えますから。「全国教育のうたごえ交流会」(6/17・乙訓)、「日本のうたごえ祭典」(8/25〜27・札幌)で歌われることになった「へいわのうた」をご存じでしょうか。(私は、指揮を担当することになりました)〈爆弾じゃなくてご飯がいい/悲しいじゃなくてうれしいがいい/みんな同じ命だから/戦争じゃなくて/優しいがいい〉と歌います。宇治の共同作業所に通う仲間たちの言葉をつないで、生まれた歌です。

戦争反対の思いを一人でも多くの人と歌い交わす、小さな一歩ではあっても、自分の出来ることを足元から広げる運動をずっと続けていくことが「新しい道」につながるのだと、私は信じています。

